

緊急時の対応をあらかじめ計画しておきましょう

予想外の緊急時に対応できるように準備しておくことが大切です。緊急時の行動をあらかじめ話をしておいて、計画書に書かれているように素早く行動することが肝心です。よく自分の頭の中で全てのことに対応しようと考えがちですが、最も大事なことは全ての基礎的なことをカバーできるように頭に入れておくことです。

全てのラグビークラブとその施設が緊急時の対応を計画しておくことは必須です。これは潜在的な緊急時に対応する唯一の方法です。緊急事態は何処にも起き得ますが、天災のような緊急事態には、他の地域よりその場所におきやすくなっているものもあります。緊急事態は、怪我だけではなく心臓発作や発作、または脳梗塞などといった病気の場合もあります。

緊急時の対応計画には起こりえる全ての緊急事態に対応できるようにしておかなければなりません。この計画は参加者みんなの責任を表すものであり、次にあげる分野をカバーするものでなければなりません。

施設のレイアウト

医療関係者が何処から入り、何処からフィールドの外に出すのか計画しておきましょう。施設には救急隊が入ってこれるように、または選手が非難できるように門または扉を開けられるようにデザインしておくことが重要です。

用具（道具）

応急処置用具がもれなく用意されているか確認しておきましょう。そして緊急時に使用する用具に精通しておきましょう。選手の健康チェックデータや既往歴なども簡単に取り出せるようにしておきましょう。

内部でサポートしてくれる人（主にグラウンドで）

サポートしてくれる人は練習や試合の場面でいてくれる人がよいでしょう。これにはコーチやアスレチックトレーナー、先生、養護教諭、校医、アスレチックディレクター、事務員そして用務員が含まれます。

外部でサポートしてくれる人（主にグラウンド外で）

救命救急や医療の関係者、警察、消防士、保健所、病院、エネルギー関連会社、厚生労働省の電話番号はあらかじめ掲示しておくのがよいでしょう。メンバーそれぞれに義務として次にあげる役割を振り分けておきましょう。義務の例として

- 選手の世話をする人
- 傍観者のコントロールや他の選手を統括する人
- 救命救急や医療関係者と会う人
- 怪我をしたときに適切な施設へ搬送する人

コミュニケーション

どのようにまたいつ地元の救命救急に連絡をすればいいのか確認しておきましょう。グラウンド・施設をサポートしてくれる職員らで指示系統を作っておきましょう。怪我をした選手の家族または保護者と連絡をとる人、またメディア関係者と連絡をとる人がいるかどうか確認しておきましょう。

フォローアップ

適切な報告書（事故や発生時の報告書）を作成できる人と、応急処置用具の詰め替えを行う人を決めておきましょう。緊急時の対応計画の効果を評価して、スタッフ間でミーティングをひらく人をチーム内に準備しておきましょう。危機に先駆けて戦略や手順を持つことは必要不可欠であります。緊急時の対応計画を打ち立てることにより、練習や試合時に起こる緊急事態に備えることができます。